会報 わかくさの風 No.15

社会福祉法人戸田わかくさ会

〒335-0021 埼玉県戸田市新曽1522-1 わかくさ内
Tel 048-432-8198　Fax 048-432-8298　http://www.wakakusa-kai.com/

⇒ 公開研修での社会福祉法人ひらく会理事長山﨑氏の講演の様子。70名以上の参加がありました。

やさしさと笑顔
～人は関係の中で「働き」をする～

今日は「わかくさ」の避難訓練のある日である。普段とは違った雰囲気で利用者も落ち着かない。アナウンスが流れ、いよいよ訓練本番である。職員に誘導され、玄関前に利用者が集まってくる。しばらく様子を見ていたが、全員避難したかを見ると、Sさんが食堂前の廊下にフリーズしてじっと立っている。てこでも動かないといった様相である。

彼は発語も少なく、重度の知的障害があり、療育手帳Ⓐを保持している。しばらく横で「玄関まで行こう」と声かけするが、どうにも動かない。根が生えたようである。

なぜ、フリーズしているか考えあぐねていると、彼の視線は食堂奥のテーブルに伏せているある利用者に向いていた。この視線に気づくまで5分ほど要しただろうか？「そうか！奥にいる同僚を心配していたんだ」とわかり、彼に「心配だったね。後から連れて行くから大丈夫！」と声をかけると、破顔一笑。そして、スーッと玄関口まで自分で歩きだした。家族が記入した個人調査票には、彼の長所として「優しい」と書かれている。あらためて、「同僚を思う優しさ」の深さを知ることになった。

社会福祉法人訪問の家（横浜市）の前理事長 日浦 美知江さんは、「人間は皆関係の中で生きている。どんなに障害が重くても、人は関係の中で大きな『働き』をすることができる。」と言っている。人は何らかの役割があるといわれているが、人は何らかの機能する力を有していると言い換えることもできる。彼の視線は、日浦さんのいう意味をまさに示唆している。そのことをあらためて噛みしめている。

統括施設長　竹嶋　紘

戸田わかくさ会公開研修
「自分らしく地域で生活したい」
～地域と共に歩む法人を目指して～

◆戸田わかくさ会公開研修

平成29年9月2日（土）に「自分らしく地域で生活したい！～ノーマライゼーションの実現を目指して～」というテーマのもと、戸田市文化会館にて、公開研修を開催しました。

今年度は、法人は地域と共にあり、今後更に連携強化の必要性があるということで「地域とのつながり」にスポットをあて、第1部では、先駆的な取り組みをしている、社会福祉法人ひらく会理事長の山﨑豊氏をお招きしました。法人化までの動きや拓かれた地域づくりまでの道のりをご講演いただきました。また、第2部では、法人作業所職員から、各事業所における地域との関わりについて発表をしました。

◆ひらく会の取り組み

第1部では、元々の任意団体がなぜ社会福祉法人化を得て事業運営しているに至ったかということをひらく会のあゆみと共にうかがいました。また、その中で地域住民の皆様や福祉行政とどのようにつながり・連携を育んできたのかということを、具体的なお話として聞くことが出来ました。地域に理解され、必要とされる事業所づくりとして、地域課題に積極的に取り組んでいくということが一つのきっかけになるということを学びました。そのひとつが、グリーン活動というリサイクル作業でした。一つの事業所だけでなく、川口市内の複数の事業所でリサイクル作業を行い、協働意識が市内の事業所や地域に根強くあるように感じます。

「場を作っても、支えるのは地域」というお話があり、当たり前のようで、難しい現実に対して、地域の一つの拠点として作業所やグループホームがあるということの意味を考えるきっかけになったと思います。また、地域課題やニーズについて、行政と共有し、制度を作っていく事が地域を拓く・つくる・かえていく近道だと強調しておりました。

◆わかくさ会の取り組み

第2部では、法人内の作業所である、わかくさ・ゆうゆう・かがやきの現在の地域の方との関わりを一部分ではありますが、報告しました。

わかくさは作業や買い物体験を通しての関わりを、ゆうゆうは民生委員さんや地域の方から見守られているということを、かがやきからは、畑作業を通しての共同活動の取り組みを発表しました。それぞれ、関わりの中心となる方にインタビューをし、まとめました。

それぞれ、違う視点からの発表でしたが、共通している部分として、地域の方に知ってもらうことや、受け身ではなく、事業所からの発信していくことの大切さ、事業所や職員は架け橋となる役割を担っている事があげられました。

◆参加者の声

当日は、78名の方が参加してくださいました。アンケートの中には、「生の現場の経験を聞けて良かった」「地域で何ができるかを改めて考えるきっかけになった」「地域丸ごと巻き込んでいく必要性を教えていただきました」等、現状や事業所のあり方について考える良い機会になったという声が多く聞かれました。また、様々な地域との関わり方がある事や今後、障害のある方の為だけでなく、何をしていく事が地域の為になるのかといったこと考える良い機会になったと思います。具体的にはどうしていくか…これからの法人の課題です。一歩ずつ着実に前へ進むためにも、地域ニーズにも目を向け、一人ひとりの支援力の向上と法人としての強化、地域との連携に協働の姿勢で携わっていけたらと思います。

（研修委員　宮國）

「アトリエ創庫」という時間・空間

◆制約を超えて

今年5月より始まった戸田わかくさ会の新規事業「アトリエ創庫（あとりえ　そうこ）」。

わかくさやゆうゆうでの創作クラブは「場所がせまい」「時間が短い」といった制約があります。それらの制約に対して、「広い場所で大きな作品を描きたい！」「1時間～1時間半で終わりでなく、もっと長い時間、表現活動に集中して取り組みたい！」といった利用者からの要望がありました。

そこで生まれたのがアトリエ創庫です。ここでは10時半頃から15時頃まで表現活動に取り組めます。そこにあるのは、ゆったりとした空間、たっぷりある時間。新しい環境で、参加者の表現活動がより良い方向に変化することを願いました。

◆一番の目的

しかし、アトリエ創庫は作品をつくることが一番の目的ではありません。参加者全員にとって居心地の良い場所をつくり、そこに居る時間、人生の質が少しでも上がることを一番の目的として考えています。そして居心地の良い場所を創り、その結果として作品が生まれたら素敵だなと考えています。

◆フラットな関係

実際、初回では緊張していた参加者が、参加回数を重ねるたびにリラックスして楽しむようになってきていることがよく分かります。そして、わかくさ・ゆうゆうという事業所の壁を越えて参加者の交流が生まれています。アトリエ創庫初体験の時は顔見知りの職員としか話せなかった人が、今では初対面の参加者とも気軽にコミュニケーションを取っています。また、「職員」「利用者」という壁もできるかぎり取り払い、フラットな関係の構築を目指しています。そこに「教える」「教えられる」という関係は存在しません。そこにいる全員が絵を描いたり会話を楽しんだりして、一緒に昼食を食べてゆったりしています。

（清水）

「音色がきれい」と言って職員と一緒にピアノを楽しむ人、談笑する人、音楽を楽しみながらマジックペンで思いっきり画用紙にガシガシ描く人、何かを感じ何かを楽しんでいる人、何時間も集中してひとつの作品に取り組んでいた人・・・そこは何も強制されない、時間と空間を楽しむ場所。

福祉作業所かがやき
就労移行（ＴＨＹＭＥ）の取り組み

と思います。その為、利用者が「生徒」、職員が「先生」のような関係性を想像する方もいると思います。しかし実際のところ、利用者は殆んどが私よりも年上で人生の大先輩です。その豊富な人生経験から私の方が勉強になることも多いです。もちろん私たちは専門職として利用者支援をします。それと同じくらい利用者のおかげで学べていることもあります。つまり、「先生と生徒」ではなく、互いを高め合える対等な関係であると改めて実感しました。

◆私の向き合い方

私はかがやきに入職し、就労継続支援Ｂ型の職員になりました。１年間、就労継続支援Ｂ型で経験を積み、今年度からは就労移行の職員になりました。そこで私は、就労移行支援を実際に行う支援者となって改めて感じたことが多くありました。

ひとつ挙げると、利用者と向き合う姿勢です。「就労移行」というと、どうしても「就職訓練学校」のようなイメージを持つ方が多いて行くことが大切だと感じています。

精神障害の方を受入れるにあたり、就労移行に親しみやすい愛称をつけることになり、職員で話し合った結果、「ＴＨＹＭＥ（タイム）」という名前になりました。ＴＨＹＭＥは時間を表すＴＩＭＥではなく、ハーブのタイムです。ＴＨＹＭＥの花言葉には「勇気・活動力」という意味があります。私たちは就職を目指す利用者の一歩踏み出す勇気をサポートしたいと思い、この名前で活動していくことになりました。

訓練に関する取り組みとしては、同法人の戸田市障害者就労支援センターやみなみと連携して、必要な利用者へ、「自動思考」についての講座を行いました。内容は、自分の今までの体験から、悪い方向に考えてしまう時の癖を見つけ出し、それをその人にとって良い方向に考えられるようにするものです。職場で嫌なことがあった際に、自分で悪い方に考えずに、切り替えることが出来るようになります。それを目標にこの講座を実施しています。

◆タイムの花言葉

今年度から就労移行は精神障害のある方を受け入れる取り組みにも力を入れています。その背景として地域での必要性が高まっており、精神障害のある方が利用できる事業所が少ないからです。また、就労移行支援事業所が戸田市内にかがやきしかなく、精神と療育手帳を併せ持った方もいることなども挙げられます。私たち職員は、今後も利用者と地域の要望に応え

◆利用者の声

最後に、現在は５名の利用者を受け入れて訓練を行っています。その中の２名の方に「ＴＨＹＭＥを利用して良かったこと」をインタビューしました。

【Ｏさん】

「支援してくれる方がいるので、自分の希望する仕事に直結したプログラムを組んでもらったことです。」

【Ｕさん】

「自分の感情や体調、心配事などをスタッフの方に自分から相談できるようになった事です。」

インタビューを聞いて、今後もたくさんの利用者の方に「ＴＨＹＭＥを利用してよかった」と思ってもらえるような支援を心掛けて取り組んで行きたいと思います。

（森）

各事業所の取り組み

わかくさ

働くことも健康が大事
～機能維持活動の取り組み～

わかくさでは、毎週木曜日の午後、生活介護の利用者を中心に機能維持・向上活動を行っています。わかくさの課題の一つに、利用者の高齢化があります。以前は杖を突きながらも1人でスタスタ歩けていた方が、車椅子を利用したり、疲れにより長い距離の歩行が難しくなった方も見受けられます。1人ひとりの現在の生活を守っていくために機能の維持は大切な支援となっています。

取り組みは2部構成になっており、前半はボウリングや輪投げ、的当てなどを2チームに分かれ、対戦します。楽しみな要素を取り入れることで、後半の取り組みへの導入としています。また、チームで行うことで、他の仲間の応援にも力が入るなど、利用者同士で励まし合い、喜び合う良い機会となっています。

後半では、看護師を中心により機能の維持を意識した取り組みを行っています。手足のリハビリ体操やボールを用いた体操、舌の使い方を維持するパ・タ・カ・ラ体操（舌の機能を維持し、スムーズに摂食できることを目的した体操）などを実施しています。椅子に座りながら輪になって、利用者同士がお互いの顔を見合わせながら、表情豊かに取り組んでいます。

わかくさでの機能維持の取り組みは、一般的な「リハビリ」と言われる機能の回復までは望めません。しかし、月3回のOT・PTの個別の支援と併せて機能の維持に努めています。これらの支援の取り組みの中で大切にしていることは「たくさんの笑顔」が見られているかどうかです。機能維持・向上活動にあふれる笑顔は利用者、職員をさらに元気にしてくれます。

（久保田）

ゆうゆう

7月より福祉作業所ゆうゆうでスタートした
エコ・プランナージャパン株式会社の御紹介

エコ・プランナージャパン株式会社　代表の貞包（さだかね）と申します。

今回、2月に福祉作業所ゆうゆうの職員から連絡があり、ポスティングの作業をさせて頂きたいと言う話から、現在のリサイクル作業を行って頂いています。

2月にポスティングの話を頂いた際は、半信半疑でしたがお願いしてみると利用者の皆さんのまじめに仕事に取り組んでいる姿を見て感動致しました。

弊社は、平成23年から埼玉県戸田市を中心に関東一円で、遺品整理をはじめ、一般住宅向けの片付けや掃除・廃棄物処理やリサイクル事業に従事している会社です。

そこで7月より、福祉作業所ゆうゆうでリサイクルの作業も出来るのではないかと支援員の方からの話もあり、お願い致しました。

どこまで出来るか分からない部分もありましたが、分からない仕事も一生懸命に取り組んでいる姿を見ると、社員共々「頑張らなければ」と言う気持ちになり仕事に対しての意識の高まりにまで繋がっております。

今後も、ゆうゆうさんといいお付き合いが出来ればと、思っております。

最後にですが、弊社の経営理念を申し上げます。

弊社の想いは、遺品整理、不用品の片付け・回収を行いながら、出来得る限りのリサイクルを行い、ゴミの量を少しでも減らし社会に貢献する事をモットーとしております。

遺品整理に際しては、ただ片付けるだけではなくご遺族の想いを最優先に考えたきめ細かな作業を、心を込めて行い、片付けに際してもお客様のご要望に沿った完璧な仕事を全スタッフが常に追求しております。

その他、お引越し・特殊清掃・

リサイクル・買取り・リフォーム・家屋解体・遺産相続等各種手続き代行・不動産売買紹介など全てのニーズにお応え致します。

グリーングラス

ホームにおける個別支援計画について

今から5～6年前に、竹嶋統括施設長から『私の希望するくらし』という支援計画の書式を教えて頂きました。当時は「本人の強みを生かし、出来る事を増やす」という視点を持った訓練・指導の要素の強いものでした。

しかしグループホームの利用者にとって「生活の場面で、訓練・指導の必要はあるのだろうか？」と疑問が生まれました。その為、疑問に応えられるこの個別支援計画を活用することで、利用者の希望を実現することが出来るのではないかと思い導入しました。

この計画は、①日常生活で「出来ないこと」「直すところ」に注目し、改善することを目標に立てるのではなく、利用者個々に持っている希望や夢を、具体的に実現出来る事を目標に立てる。②自分で「悪い所」を改善して行くのではなく、自分の「希望や夢」の為に「頑張ろう」と言う意識を大事にすることを柱にしたものになっています。

昨年度後期より試行的に開始し、今年度は全員に導入し、感じたことは、利用者自身が「希望や夢」を語る事が難しいということでした。コミュニケーション上の課題で、本人の気持ちの表出が難しいということもありますが、「希望や夢」を実現し、「楽しみなこと」へ変換することが難しいと言う事でした。具体的にどんな事がやりたいのか、どのような生活がしたいのか、と言うことが最初は中々出てきませんでした。そもそも「希望や夢」は抽象的で分かり難く、「楽しみ」に結びつけることが難しい作業でした。

しかし、本人と何回か聞き取りを続け、「楽しみ」を膨らませていくことで少しずつ、「希望や夢」が具体化し、支援計画として立案することが出来ました。

「希望や夢」が具体化すれば、当然その為に必要なことが見えてきます。例えば「野球観戦する為には、チケットを購入しなければならない」と言う目標が出ます。その為には「お給料を貯めて行く」と目的が見えます。その目的を達成する為に「無駄使いをしないようにする」と言う手段が見えます。この手段こそが、自分の「希望や夢」を叶える為の利用者主体の個別支援計画だと思いました。

今回導入した『私の希望するくらし』は、「希望や夢」を実現することで、その実現に向けて必要なことを、利用者本人が取り組む姿勢を持つ事が出来る支援計画ではないかと感じました。

個別支援計画は、「支援者が考えた理想の生活を実現する為のもの」ではなく、「利用者自身が自分の夢の為に、必要だと思ったことに取り組む為のもの」であることを改めて感じ、一層利用者に向き合う必要性を感じました。

（和田）

わかば・ひかり

「親の5年後　子どもの5年後　いっしょに考えよう！」勉強会の取り組み

わかばでは、平成26年度から「親の5年後　子どもの5年後　いっしょに考えよう!!」と題した勉強会を、年に数回行っています。障害のある方が住み慣れた地域でその人らしく暮らしていくために、活用できる制度や知識について学び、情報交換や日頃の思いを語り合う場として、ご家族を中心に多くの方にご参加頂いています。

毎回、異なるテーマを取り上げ、講師を招いて講義を聴いたり、参加者の皆さまでグループに分かれて意見交換を行ったりしています。例えば昨年度は「障害年金」「グループホーム」「成年後見」「余暇」を取り上げ、社会保険労務士や弁護士等の専門家に年金や後見制度の解説をして頂いたり、今後どんなグループホームができてほしいか、参加者の皆さまの意見をうかがいました。

グループワークや参加アンケートを通して、ご家族の思いをたくさん聴いております。例えば「生

活の場の選択肢が増えてほしい。グループホームをもっと増やしてほしい」「お金に困らないようにしてあげたい。利用できる制度を知りたい」「親亡き後に備えて準備が必要と感じるが、いつから何をしたらいいかわからない」などです。それらの思いを受け止め、より学びの多い、充実した勉強会作りを目指していきます。

次回は11月16日（木）午後1時～3時、戸田市福祉保健センター2階・講習会室①にて行います。テーマは「働く」。ご本人に合った働き方の選択のために、どんな準備が必要で、どんな支援が受けられるか学んでいきます。お問い合わせ、お申し込みはわかばまでお願いいたします。

（西川）

みなみ・就労支援C

「特別支援学校との連携～企業就労希望者向け説明会～」

みなみでは毎年5～6校の特別支援学校と連携を行っており、その中で埼玉県立川口特別支援学校との連携について紹介させて頂きます。

以前より、進路担当の先生と会話の中で『企業就労希望者のマッチングの難しさ』が共通課題として挙がっていました。この共通の課題への取り組みとして、就労を希望しているご家族の方に、マッチングの大切さを知ってもらいたいと、企業就労者向け説明会を学校で実施していくことになりました。事前に進路の先生方とも打ち合わせを行いながら進めてきました。

平成28年度から説明会を実施し、今年度は9月20日（水）に行われました。当日はセンターに登録している卒業生の方に依頼し、実際に在学時の進路決定の経緯や就労後の様子などを発表してもらいました。また、みなみの他に川口市障害者就労支援センターと特例子会社の社長にも、それぞれの視点から就労に関する情報や事例等の話を行いました。この説明会を通じて、本人の働きたい思いを大切にしたマッチングをご家族の方に伝えることができたのではないかと思います。

私たちの支援は関係機関との連携で成り立っています。今回の特別支援学校との連携は私自身の勉強にもなりました。今後ともより良い支援を目指していけるように連携を深めていきたいと思います。

（新井）

カフェこるぽ

（戸田市福祉保健センター内）

★カフェこるぽ営業中です！

広報にカフェこるぽが登場するのは久々、もしかしたら初めて？

福祉保健センターの中で毎日美味しいコーヒーを絶賛提供中のカフェこるぽです。

最近のカフェこるぽは、かがやきから3名、ハーモニーから5名、ゆうゆうから2名の利用者さんがスタッフとして携わっています。

イラストが得意なスタッフさんは箸袋一袋ずつに素敵なイラストを描いてくれたり、メニューのポップを作ってくれます。

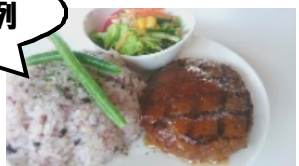
パソコン業務が得意なスタッフさんは、来客数、売上のデータ入力をしてくれます。掃除が得意な人、食器のセットが得意な人などスタッフみんながそれぞれの得意を活かしてカフェこるぽを盛り上げています。

★秋のメニューになりました

10月より温かい山菜きのこうどんがメニューに加わりました。定番商品のハーモニークッキーもリニューアル、ゆうゆうどらやき、後援会のふきんも売っています。どうぞ、みなさん、こるぽにホッと一息つきに来てくださいね。

（浜田）

メニュー一例



ハンバーグランチ（火・木）

山菜なめこうどん（水・金）

カフェこるぽ
TEL 048・287・8633
定休日　第1・3土曜
日曜祝日
営業時間10:30～16:00
（土曜14:00まで）

表現活動

流れている「時間」は、ひとりひとり違うということ

５月から新規事業「アトリエ創庫」が始まった一方、わかくさ・ゆうゆうでは今まで通り定期的に「創作クラブ」がそれぞれ実施されています。アトリエ創庫は、「慣れない場所が苦手」「いつもの生活リズムを崩したくない」という人たちには向いていません。そういう人たちには、いつも過ごしている事業所の中（慣れている場所）で定期的に参加できる創作クラブのほうが向いています。アトリエ創庫でも創作クラブでも共通することは「作品作りを強制されないこと」「何もしていない（？）時間が大切にされること」です。厳密に言えば、アトリエ創庫でも創作クラブでも「何もしていない」人なんていません。音楽を聴いていたり、笑いながら飛び跳ねていたり、好きなバスの写真を眺めていたり、会話や周りの雰囲気を楽しんでいたり、屋外に出て風の圧や陽の温かさを肌で感じていたり、五感では捉えきれない何かを感じていたり・・・絵を描く以外にさまざまな「時間」があります。そこに流れている時間のペースやリズムはひとりひとり異なります。その「時間」の中に、職員のペースやリズムを一方的に持ち込んではいけません。戸田わかくさ会の表現活動はまだまだ成長途中です。

（わかくさ　清水）

≪お知らせ①≫
戸田わかくさ会カレンダー2018販売開始！
壁掛けカレンダー・卓上カレンダー各1,000円（わかくさ・ゆうゆう・かがやきにて販売）

≪お知らせ②≫
埼玉県障害者アート企画展
わかくさ大畑桂子さん・ゆうゆう田中俊人さん入選！
12月6日（水）～12月10日（日）
会場：埼玉県立近代美術館　地下1階にて展示！
（北浦和駅西口より徒歩3分）

予定　行事

【十二月】

◆障害児・者実践交流会

日時／12月10日（日）
10：00～12：00
（受付9：30開始）
会場／戸田市商工会館
多目的ホール

内容／
①本当の笑顔を引き出すために
～脳性麻痺児の発信意欲を育む支援について考える～
②きもちを上手に伝え合うには？
～児童発達支援事業所における難聴児童への個別療育支援～
③働くことの大切について
～わかくさでの実践～
定員／１２０名（先着順）
参加費／無料
申込方法／ファックス
０４８-４２１-９５６６
メール：asnr@titan.ocn.co.jp
申込締切／11月24日（金）

Facebookもチェック

戸田わかくさ会のフェイスブックを作りました。各事業所の様子をどんどん発信していきますので是非ご覧ください。戸田わかくさ会のホームページのトップからも見ることができます。
（https://www.facebook.com/戸田わかくさ会-1570150682097 04/）

（法人の運営する事業所）
わかくさ、福祉作業所ゆうゆう、福祉作業所かがやき、
グリーングラス、障害者生活支援センターわかば、
障害者就労支援センター、障害者就業・生活支援センターみなみ、
指定特定相談支援事業所ひかり

（ホームページはこちら）
http://www.wakakusa-kai.com/

【発　行】
社会福祉法人戸田わかくさ会
〒335-0021　戸田市新曽1522-1
TEL 048-432-8198　FAX 048-432-8298

（編集後記）

秋も深まり、すぐに冬の足音も聞こえてきそうな日々ですが、皆さまいかがお過ごしでしょうか。
今号は９月に行われました公開研修の様子と、芸術の秋という事でアトリエ創庫についての記事を大きく取り上げています。
利用者が描いた2018年カレンダーも絶賛販売中です！詳細は上の「お知らせ①」をご覧下さい。　（滑川）